

平成 23 年度の協働パイロット事業は、前年に引き続き、1 事業当たりの事業額 25 万円以内で最大 4 事業を募集したところ、11 団体から 11 事業の提案を受け付けました。

審査の中で重視された点は、「協働にふさわしく、先駆性、創造性が認められるか」でした。なぜ協働するのか、市との協働の必要性の理解と説明が来ているか、また、アイデアや手法に新しさがあり、これからの協働事業のモデルとしての事業展開が期待できるかが評価のポイントとなり、これらについて、明確に回答できた団体を高く評価しました。

提案の 11 事業を審査した結果、協働パイロット事業としての「協働のふさわしさと先駆性、創造性」を満たす事業は、パソコンわかばくらぶ『障がい者を活用した学校ネットパトロール事業～就労移行支援プログラムとしての可能性を探る～』、犬の会『警察犬と考えよう！犬のトラブル解決法』、NPO 法人グリーンエネルギーしずおか『「つくろう E C O エネ」地球と家庭にやさしい自然エネルギー！』、の 3 事業であり、その 3 事業を平成 23 年度協働パイロット事業として採用するよう市に提案しました。

《採用手続きについて》

市市民生活課は、審査委員会の提案を受けて検討とした結果、提案のあった 3 事業を採用する方向で決定しました。今後、採用団体及び協働の相手方となる関係課と実際に実施する事業内容について協議し、合意した内容で契約を結ぶことにより、正式に事業を開始することとします。

採用＝◎ 不採用＝●

◎パソコンわかばくらぶ『障がい者を活用した学校ネットパトロール事業～就労移行支援プログラムとしての可能性を探る～』

子どもたちをネットのトラブルから未然に守るネットパトロールを障がい者の雇用につなげようとする考えは、独自性、先駆性において高く評価できます。事業実施にあたっては、事業と障がい者に対する理解と、成果につなげる障がい者への確実な指導が必要です。学校が対象となる事業なので、関係課と十分協議し、次につながるモデル事業となるように期待します。

◎犬の会『警察犬と考えよう！犬のトラブル解決法』

協働による効果が期待でき、事業の実行性、独自性が高く認められました。飼い犬のしつけと飼い主のマナーへの苦情は多く、社会的課題を捉えています。この提案をより多くの市民に呼び掛けるには、配布先や配布方法を工夫し広く広報をすることが大切です。また、警察犬よりも課題であるしつけを前面に出した事業展開の方が効果的だと考えます。

◎NPO 法人グリーンエネルギーしずおか『「つくろう E C O エネ」地球と家庭にやさしい自然エネルギー！』

東日本大震災があり省エネや新エネルギーなどに市民の関心は高く、また事業の実行性を評価しました。学校を協働の相手先として夏休みに実施するためには、事業内容や協働の役割分担に不明確な部分があるので、再度企画提案書を練り直す必要があります。今後の事業計画をしっかりと立て、長期

的な取組みになることを望みます。

審査委員会では、以下の事業については、残念ながら選外とさせていただきました。しかし、提案内容を見直せば、採用に達する提案もあると感じました。NPOのもつ特性や人的資産を活かし、市と協働することによってNPOの活動の領域をより広められる事業を企画検討され、再提案、若しくは自主的な活動としての実施することや、他団体などとの協働も視野に入れながら、取り組まれるよう審査委員会一同エールを送ります。

●NPO法人スリーピース

幼稚園・保育園の両方の情報をひとつにすることや、入園を控えた子の父母にとって必要な情報を提供することは評価できます。しかし、新たに紙媒体で発行するよりも、すでに団体に発行している情報紙へ入れ込むことや、情報が手軽に入手できるパソコンや携帯電話を利用したウェブでの情報発信の方が、より高い成果が得られるのではないかと考えました。情報発信を行うNPOは市民にとって必要ですので、効果的な活動を続けられることを期待します。

●NPO法人マンパワーカフェ

環境の視点でのものづくりや親子の関係づくりを視点に事業を企画したことは評価できます。しかし、協働事業の市の役割分担がPRだけになっていることや、環境の啓発においてビデオ鑑賞が主になっているところを、元技術者であるメンバーの専門性や経験や、団体の特長を活かした事業内容に見直せば良い提案になると考えます。元技術者だからこそできる事業展開に期待します。

●特定非営利活動法人AYUドリーム

地元の興津川を会場に行う環境学習の事業提案は、地域環境を重視する市民ニーズに合致していると評価します。しかし、今回の提案は、市と協働するよりもすでに同様の活動に取り組んでいる団体と連携する方が、活動をより大きくできると考えます。また、独自で発表会を行うよりも「る・く・る」で行われる「しずおか川自慢大賞」などを利用し、発表されるのも検討できると考えます。

●特定非営利活動法人静岡ハリテイング

子どもを含む一般市民に米づくり農業を伝承する事業提案は、食の大切さを伝える提案として評価できます。しかし、体験の中で、食の大切さを伝えるために何を学ばせるのかが不明確であり、事業提案の詳細が詰め切れていないように感じられます。もっと、たくさんの人を巻き込んで行う事業提案であれば、さらによいものになると考えます。

●静岡交流サポーターの会

農家との繋がりの中で地道に農業への理解を広めようとする活動は評価できます。しかし、協働事業としての市の役割が少なく、事業の目的がはっきりしていないように感じます。会員は元々農業の関係者であり、農家とのネットワークの核となる人材だと感じますので、農家の受け入れ方法などを検討し、経験を活かした事業提案ができれば、今後更なる事業展開を図ることができると考えます。

●NPO法人しずおかNPO協働ネットワークセンター

NPOにとって活動のための資金調達は必要不可欠であり、ファンドレイジングがより重要視されてくるものと感じます。しかし、なぜ市との協働でやる必要があるかという説明が不十分でした。事業提案の講演会、講座形式のものであれば、ニーズ把握をしっかりと行った上で、NPOが主体となって、受益者負担で行った方がより高い効果が見込めると考えます。

●NPO POPOLO

生活困窮者を守るために市と協働して取り組むべき事業だと評価します。しかし、食料品等を扱う事業のため食品事故の可能性もあり、衛生管理などを学びながら事業に取り組むのでは関係者の理解が得られにくい部分があります。まずは、NPOだけでできることから地道に取り組み、実績を積んだうえで事業を行う方がよいと考えます。

●静岡日タイ協会

国際交流事業の幅を広げるために、静岡市で親しみやすい球技などのスポーツを活用することに新鮮さを感じます。しかし、協働事業の相手先である市に何を求めるのかがはっきりとしていませんでした。事業の目的である日タイの交流を中心におき、その手法としてセパタクロウの普及がいかに効果的かという視点での説明ができれば、継続性のあるより良い事業となると考えます。